



# Micro ダイレクトボンディングハンズオン2日間コース

近年、接着の進歩と物性の向上、充填技術の普及により、ダイレクトボンディングの適応範囲が広がっています。前歯はもちろん、臼歯でもある程度の大きさまでは十分行えるようになりました。しかし、う蝕修復治療の知識とスキルが足りなければ、Longevityを叶えることは困難です。

**このコースではマイクロスコープを用いることで、「接着」と「精度」を最高レベルまで高め、Repeated restoration cycleを止め、ほぼ天然歯に戻すテクニックを教えます。**

日常臨床で数多く遭遇する隣接面う蝕について、診査診断からう蝕予防システム、コンサル、治療技術まで深く深く追究します。実習は1人1台のマイクロスコープを使い、個別スキルに合わせた指導を行います。自費ダイレクトボンディングを日常化できれば、経営の基盤になるだけでなく、毎日のう蝕修復診療が楽しくなり、充実した歯科医師ライフを過ごせます。

受講生4人と講師2人の超濃密な時間をお約束します

## 世界一精密な最強CR修復スキルと

## 自費CR10症例/月コンサルシステムを学ぶ



### 講師

第20期

2025年

12月13日 (土)

14:00~19:00

14日 (日)

9:00~16:00



樋口 惣

日本顕微鏡歯科学会 認定医

樋口塾 主宰

FLAT 代表



木南 意澄

日本顕微鏡歯科学会 認定医

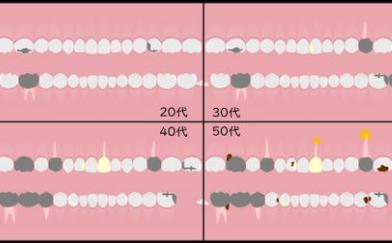
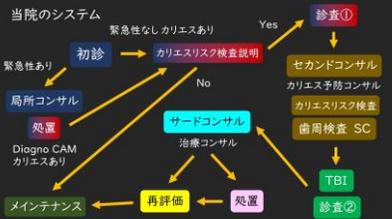
OJ 正会員

「自費歯医者」の作り方」主宰

隣接面う蝕の診査方法一覧 No Evidence, Not only Experience

	感度	特異度	コメント
問診	低い	そこそこ高い	う蝕がたじろげば診査に専念はならないし、介入の量の確定診断にもなる。しかし、う蝕が小さいときはあまり参考にしない。
パノラマ	やや高い	低い	エナメル質の厚さがわかるが、隣接面はう蝕が深くなるとエナメル質に覆われて、咬算法でも感度は低いため、ゴールシステムが採用されたわけではない。
ダイアグノカム	85%	90%	深さはわかるが、咬算法よりも高い。患者へのわかりやすさは低い。
X-ray(D)	75%	95%	咬算法よりも感度は低いため、ゴールシステムが採用されたわけではない。
視診 特定歯	80%	99%	咬算法よりも感度は低いため、ゴールシステムが採用されたわけではない。
CT	90%	95%	隣接面のう蝕があるが、隣接面は最も高い。歯質が入っていると見えにくい場合がある。

様々な診査で介入、管理、そして、ゴール設定の診断をする



# コンテンツ

## 講義

- ①う蝕治療の診査・診断、治療介入の基準
- ②自費にするためのCR修復治療の流れ「本当の自費CR」
- ③確実に月5症例を契約するためのコンサルシステム
- ④アイボリー型セパレーターを用いたKyu-Shuテクニック 実習（すべてマイクロスコープ下）

- ① 前歯Ⅲ級窩洞CR修復
- ② 臼歯Ⅱ級窩洞CR修復

※講義スライドおよび動画、コンサルスライド（Power Point）をすべてデータでお渡しします

## 定員

歯科医師 4名 **アシスタント各1名帯同を推奨します**

コンサルシステムやラバーダム、アシスタントワークを教えます  
自費CRシステム導入には是非、スタッフに力を貸してもらって下さい

## 受講費

250,000円（税込み）

## 場所

樋口歯科 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル4階

## 申込方法

何らかの形で樋口か木南まで受講の意志をご連絡ください  
その後、受講費を振り込んでいただきます

## 講師連絡先

ikominami@gmail.com Tel. 090-3017-1550

## 受講費振込先

福岡銀行 けやき通り支店 普通 453051  
株式会社Snow Dent 代表取締役 木南 由希子  
(振込元が分かりやすいようご配慮ください)

